

# なきごえ

“キーウイ特集”



1970

8

大阪市  
天王寺動物園協会

# キーウイの七不思議

おもちゃの動物園  
吉田平七郎

キーウイはニュージーランドのマオリ語で鳴き声からつけられた名前であるが、ワンダーフルな鳥なので奇異鳥とか学名にでてるアプテリクス(Apteryx)を直訳して無翼鳥とも呼ばれるが、これは最も鳥らしくない珍鳥の特徴をうまく表現している。

走鳥目の中でも翼や尾が一番退化して全く外見上何もないが、毛状羽毛の下に僅かに翼の痕跡器官が残る昔は飛んでいたことになる。専ら地上生活をするようになり、太く丈夫な脚が発達しているが、前趾が3本で後趾が1本あり、それがエミュール、ヒクイドリでは3本に、アフリカのダチョウでは2趾になるのと比較して進化は退化を伴うもので特殊化の進んだものと教えてくれる。

キーウイは全滅したモア(恐鳥)と近縁だから生きた化石だとされているが、ニュージーランドは大昔から孤立した陸島で哺乳類の進入がなく、食肉動物やヘビ類もいなかったので住みついた鳥類には飛べなくなってしまったものが多い。

敵がなく安全で食物が豊かだと産卵数も少なくなる。キーウイは走鳥目では鶏大で最小であるが、体重の割合にすると最大の卵を生む。年1回1腹1卵生であるがダチョウはその点1個当り産卵で最小にしか値しない。キーウイの卵は長径12.7センチ短径7.6センチで450グラムもあり、雌より1割小さい雄が専ら抱卵、ふ化させるが、75日前後かかる。その間雄は1週間位飲まず食わずで頑張るといふ。土中の巣穴にはコケや枯葉があって親鳥が温めるのには完全に被い切れない位卵が大きいので、植物の腐植熱が利用されているという。

キーウイは用心深く臆病で、昼間は穴居し夜行性の動物で、目が小さく退化している。多くの鳥類が目の動物で鼻が退化しているのにキーウイは反対に嗅覚が鋭く鼻で餌をあさる唯一の鳥である。15センチから種類によっては20センチにも達する細長い少しカーブした嘴の先端に鼻孔があり、根元には剛毛ひげが発達していて嗅覚と共に触覚もすぐれている。

湿地帯のミミズや地虫を主食にしていて、一日に卵の重量に匹敵する450グラムのミミズを食べるといふ。慎重にミミズをつかんで引きづり出し、一気に口をあけて頭を後にそらして丸呑みするのも名人芸である。水は嘴の根元まで水中に入れ、それを水平の位置にして不自由なく飲んでしまえる。

キーウイはミミズのいる地面を足でパタパタ太鼓打ちをしてダンスをする。とミミズが雨の音と違って表面に出てくる。それをうまく捕えるという記事があり、又その動作を見てキーウイは自分の影を見て驚

くと報告している人もいるが、これをまじめに考えてみるとかなり科学性がもてると思う。というのはミミズには走地性、走湿性、走触性があり、土中に伝わる振動の刺激に対して敏感に反応する。これを多年の経験から生活の知恵というのを知っていて、大阪府下淀川右岸の子供がミミズを取るのに鋤(すき)で土を振動させると、地震とまちがえてか見事に出てくるので、たやすく集められると実行している現場を見て、私に知らせてくれた人がある。(実弟東久太郎談) 従ってこの話は遠くニュージーランドのキーウイにつながり長い嘴が鋤なみに足音の振動要因と相まってミミズの行動を刺激していることが妥当となり、キーウイがミミズとりの穿さく型嘴と別に天才的特殊能力の持主であることが理解できる。

時にキーウイが歩き疲れて長い嘴をステッキ代りにして休んでいるという。

雌雄関係は一夫一婦で、雌の方が体も大きく住居の穴に外敵があらわれると防ぎ護るが雄は逃げ去るとか、雄の鳴声の方が甲高いとか興味のある話題や未解決の問題が数々あり、それらはキーウイ自体が答えてくれると思う。

70年万国博のおかげでキーウイと対面できて月の石にもまさる感激と地球上に生れて長生きした生き甲斐を私は痛感している。中学時代からあこがれていた夢幻の鳥キーウイとの出会いがかなえられたのだから、日本歴史開びやく以来の珍鳥親善使節の入園でもあり誰よりも歓迎せずにはいられない。

キーウイはニュージーランドの象徴で国鳥になり、切手や紙幣コインの図案に、軍隊や飛行士の紋章や輸出組合連合会の商標ともなって海外に活躍し、ニュージーランド人は自分のことをキーウイと好んで愛称する。1921年来輸出禁止となり挙国一致愛護精神が普及徹底している。かつてはキーウイの羽毛がマス釣りの毛針になるためさかんに捕獲されたこともあり、楽園で特殊化したものは急速に絶滅し易くこれを寸前にくい止めたニュージーランドの人々に感謝と敬意を表する。

「滅びゆくものはみな美しい、しかし亡びさせまいとする願いはもっと美しい。」

なきごえ8月号もくじ	
キーウイの七不思議.....	2
キーウイを飼って.....	3
動物園グラフ(キーウイ).....	4・5
キーウイに就て.....	6・7

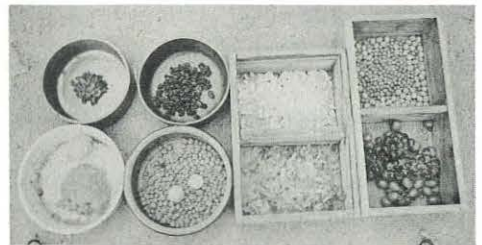
# キーウイを飼って

磯田啓子

キーウイを担当して、と云っても、まだ僅に20日間の事であり、それも午後11時以後翌朝までの記録にかけていますので、(2・3日中に夜間行動確認の予定)ほんとに断片的なものでしかありません。たゞわかった事と云えば、キーウイは目下、完全な夜行性で、その特異なムードに接しられるのは、夜しかないと云う事です。

大体、午後8時前後に出て来て、長い嘴を軟い土につきさし、み、ずを食べます。丈夫そうな足を持っていますから、雉のように土をかきのけて採食するのではないかと考えていましたが、そんな風ではなく、朝になると、至るところに、スポット嘴のあとがあいています。一説では、水も飲まないし、水浴もしないとおあるようですが、水浴はともかく、水はよく飲み、浅いプールに好んで入るように思われます。餌としては、牛肉、鶏肉、馬肉、兔肉、卵黄、むし卵、ドッグフード、すりえ、グリーンピース、えんどう豆、キャベツ、(細切)レタス、ぶどう、干ぶどう、リンゴのおろしたもの、人参(同様)等をやっていますが、嘴のあとのあるのはリンゴのおろしたものに限られており、今のところ、み、ず一辺倒のようです。上司の配慮、同僚の協力、市民の皆様の御厚志のおかげで、辛うじて約1kgを毎日補給しています。

室温はクーラー2台を備えて、20℃~24℃湿度60%~80%に保つようになっています。ニュージーランドは大体8℃~23℃との事ですが、クーラーの下では余り低温では調子が悪いように思いました。嗅覚と聴覚がすぐれているとの事で、なる程、少しの物音にも敏感なようですが、又案外、のんびりしたところもあって、一度だけですが、私の足もとに偶然出て来て長い嘴の先で靴や足に聴診器をあてるようにチェックして調べられた事があります。(メス) まさに調べるといふ感じそのまゝで、念をおすよう



写真(エサの種類)  
左上から右へ: 鶏肉、レーズン、キャベツ、えんどう豆(生)とグリーンピース(缶詰)  
左下から右へ: リンゴのおろしたもの、ドッグフードとおした卵黄、レタス、ぶどう



写真(エサの配置状況)

に方々にふれてみるので普通の鳥類の嘴の使い方とは全然違ってきます。その時にはフンと鼻をならしてしましたり、鼻からわずかに粘液をだしてました。このチェックはメスがオスに対してよくやっています。

オスの方はいやがってはねのけるようにしているようです。7月2日、初めて到着した夜は、オスの方はぐったりしていて、どうなる事かと思いましたが、その後は割合機嫌よく過しているようです。ただ、メスの方が、優勢で、オスは気も小さいようで、メスに遠慮気味です。体色はメスの方が浅くオスの方がしまも細い。体もメスの方が大きいですが、此頃はよく見違える程になって来ました。(メスの体重900g)、巣になっている隠れ場所へは初め別々でしたが、此頃は一緒に入っています。仲がよいのか悪いのか、一寸判じかねる点がありますが、ひどく追いかけ廻したり、つき廻したりと云うような事はないようです。たゞ、メスがオスを一方のはしえ押しつけて、押し合っているのを見た事があります。電燈は10Wが一つついているのですが、いきなりつけても別に驚く様子はありません。暗い光の中を影のようにこの鳥が動いて、様々な事を行っているのを見てみると、こちらまで何となく現実離れのするような気分になります。生きた化石といわれるこのキーウイが、みなさんに忘れ去られるまでも長く、動物園の一隅にひっそりと生きつづけられる事を願ってやみません。 7月20日

表紙の写真説明  
「キーウイ」  
ニュージーランドにしかすんでいない翼の退化した夜行性の珍らしい鳥で、1番が7月2日に日本で初めて入園しました。

# 動物園グラフ

## “キーウィ”入園

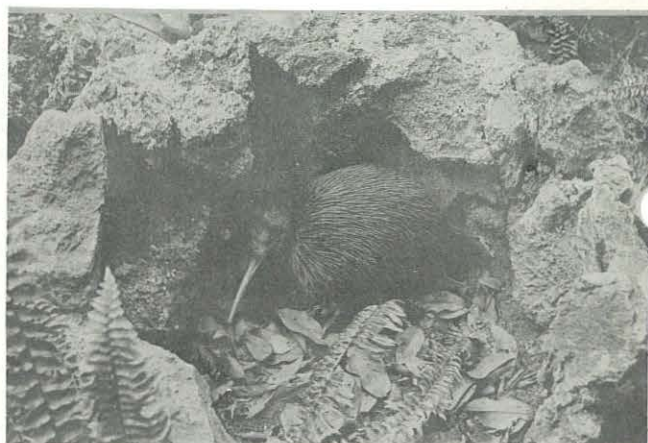
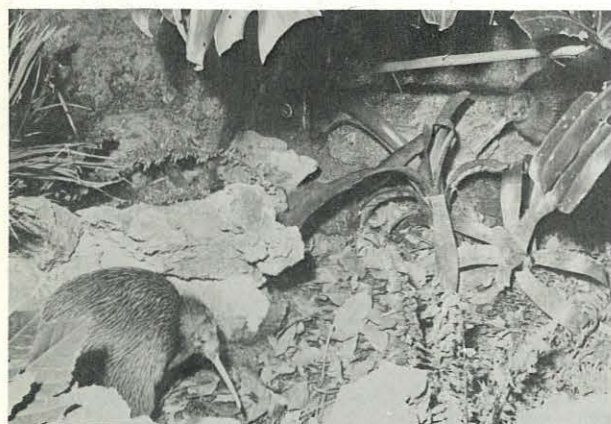
珍鳥キーウィが入園して1カ月余り、まずまず順調に育っていますが、ここで、その生態の1部を御紹介します。

(樽本 勲 撮影)

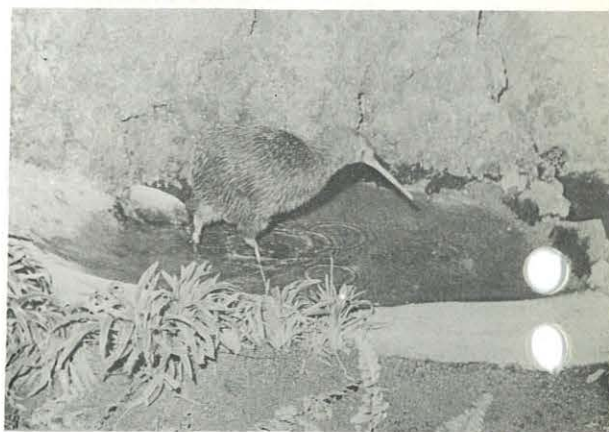


↑長い嘴と長いひげ、つぶらな目。

写真はにが手で、少し気嫌が悪くすっこんでいます。



プールにもジャブジャブと入って水を、  
↓嘴ですくって飲む。



↑2羽ならんだキーウィ  
右がめすで、めすの方がやゝ大きい。

←岩を組んで巣穴をつくってやりました。この上に木の枝や葉をふいてやるところに好んでねました。

エサのミミズをさがす。とくに木や草の根のあたりを“フン、フン”と鼻い↓きをたてながら嘴でさがっていました。



↑正面から見ると、ネズミの目のよう。

嘴のきくくらいまで土に突  
↓っこんでミミズをさがす。



## 7月の動物園日記

1. シマハイエナがとなりのブチハイエナとけんかをして前足の爪を噛みきられましたので治療しています。
2. キーウィ2羽が午後10時すぎに動物園の飼育場に到着しました。
4. 先月生まれていたスカンクの赤ちゃん3匹のうち2匹が親に咬み殺されていました。

台風2号の接近との報に放飼のフラミンゴの羽根切りを行いました。

6. 台風2号近畿を通過しましたが被害はほとんどありませんでした。
- ボウシテナガザルの寄付がありました。
8. インドひょうのおすが死にました。以前から病気で治療中でしたが、肝臓に大きな病変がありました。
9. ニュージーランドから贈られることになったキーウィの寄

贈式がニュージーランドのホリオーク首相夫妻を迎えて行なわれました。

- ライオン1番を動物交換に出しました。このライオンは人工哺育したよく慣れたもので、姫路動物園に行きました。
13. キンクロハジロが7羽ふ化しました。
14. アミメニシキヘビがとなりのコブラの部屋にはめ板をはずして入り、かまれて死にました。
15. コブハクチョウが1羽死にました。

キーウィの体重測定を行いました。900gありました。テグーとミズトカゲがゾウガメにおしつぶされて死にました。○生物学者の天皇陛下は、このほど動物園に入ったキーウィに高い関心をお持ちになり、この日、ロイヤルホテルで、皇后陛下と共にご覧になりました。

# キーウイに就て

小林桂助

キーウイ科の鳥は1属(Apteryx)3種あって何れもニュージーランド特産である。ニワトリ大の鳥でありメスの方がオスより大きい。翼羽も尾もなく飛翔力が退化して、羽毛は堅い羽軸がなく綿羽状である。一般の鳥類のひなの綿羽が成鳥になってもそのまま残っている原始的な形体の鳥であり、鳥類の中で最も鳥らしくない鳥ということが出来る。胸骨には一般の鳥に見られる竜骨突起がなく、胸筋も発達していない。

嘴は細長く多少下方に湾曲して居り、上嘴の先端は下嘴よりも稍長くて、下嘴の先端を蔽っている。嘴を地中に差し込んで餌をとるために口をひらく時にその先端を保護するのに役立っている。鼻孔が長い嘴の先端に開いている唯一の鳥であり、嗅覚によって地中の虫を食べるが、視力は著しく弱く、嘴の基部にある長い毫毛がこれを助けている。脚はよく発達していて強力であり、後趾は短かいが、爪は強大である。

たいへん臆病な鳥であって湿気のある密林中の朽葉のつもった土のやわらかい所に住んでおり、昼間は木の洞や倒木の蔭、又大木の張り出した根の下葉の薄暗い所にかくれ、夜間に出て来て活動する。ねる時には一般の鳥の様に嘴を後方に廻すが、体の上面の両側に羽毛のまばらな所があり、この部分に嘴を入れている。

餌は主としてミミズ類、昆虫の幼虫や蛹であるが、やわらかい小さな木の実や豆類、キャベツ等も食べる。視覚は弱い嗅覚が発達しているので地中の虫をとる時に役立っている。

ニュージーランドの土人のマオイ族がそのなき声によってキーウイと名付けた通り、夕方から夜にかけ短かい口笛の様な声でKiwiとなく。

崖地や大木の根の下の穴の中に巣を作る。産座には小枝、枯草、羽毛等を敷くが巣作りはすべてオスの仕事であり、又抱卵もオスのみである。時々自分の胸から羽毛をぬいて巣に敷くこともあり、オスは抱卵中は1週間以上も餌も水もとらず卵を抱き続ける。

産卵期は7月から2月頃までであり、1巣1~2

個の白い卵を産む。稀に1巣3卵のこともあるといわれている。卵は1個450g位あって親鳥の目方の25%以上もあり、この意味で鳥類中最大の卵を産む鳥ということが出来る。

昔マオイ族は沢山のキーウイを捕えた。肉は食用とし、羽毛は外套を作るために高価に取引されたという。又この羽毛は鱧釣用の毛バリとしても珍重された。彼等は之を捕えるのに夜間そのなき声をまねて近づき、又昼間は犬を使って穴を探した。其の後この鳥はノウサギを駆除するためにフェレットが移入されたが、その被害をうけたり、犬や猫にとられたものも多く、急激に減少した。然し夜行性の鳥であるので昼間は木の洞にかくれていたもので、漸く今日まで余命を保つことが出来たのである。この鳥はニュージーランドの象徴として貨幣や切手のデザインにも使用されており、今日では厳重に保護されている。標本でさえ国外に持出すことは堅く禁止されている。1970年の大阪万国博覧会を記念して今回生鳥が天王寺動物園に来たことは、ニュージーランド政府の特別の厚意によるものであり、末長く大切に飼育せねばならないと思う。

3種のキーウイは次の通りである。  
キーウイ *Apteryx australis*  
黒色の縦斑があり、次の3亜種に分類されている。

*A. a. mantelli*  
ニュージーランド北島産。頭頸部灰黒色で他の上面は暗赤褐色で黒色の縦斑があるが色は個体変異が多い。嘴は角色、脚は褐色。嘴は♂120~140mm、♀130~180mm 跗蹠♂58~70mm、♀65~90mm

*A. a. australis*  
ニュージーランド南島産。灰褐色で黒色縦斑あり。嘴角色、脚肉色、爪白。♂は嘴110~125mm ♀150~170mm 跗蹠♂60~80mm ♀70~80mm

*A. a. lawryi*  
ニュージーランドの離島であるスチュアート島産。上面赤褐色で黒色縦斑あり。下面は灰色で褐色縦斑がある。嘴スレート色、脚暗灰色。嘴♂130~151mm

7頁へつづく

♀160~206mm 跗蹠♂70~85mm ♀75~100mm で3亜種中最大。

オオマダラキーウイ *Apteryx haasti*  
ニュージーランド南島の西部に分布。頭頸部暗灰褐色で目の下に黒斑がある。上面には黒褐色の不規則な横縞がある。下面は灰色で不規則な黒褐色の横縞がある。嘴角色、脚暗褐色。嘴♂100~120mm ♀

130~160mm 跗蹠♂72~82mm ♀80~90mm 次のコマダラキーウイより大形である。

コマダラキーウイ *Apteryx oweni*  
ニュージーランド南島に分布  
全全体黄褐色で黒褐色の不規則な横縞があり、下面は稍淡色。嘴肉色、脚汚白色。嘴♂75~97mm ♀90~118mm 跗蹠♂50~60mm ♀58~66mm

## ★キーウイの飼育場



現在キーウイを飼育しているところは、以前ワニがいたところ。新爬虫館の完成で空いていたので、ここを少し手入れし、プールは水をぬいて山土を入れ、観葉植物を植えました。室温を20~24℃に維持するため、ルームクーラー2台をとりつけました。湿度は60~80%を保っています。

## ★ミミズたくさんください



キーウイは、ミミズを1日1羽あたり、400匹ほどたべます。動物園では、一しょうけんめいミミズさがしをして与えています。何しろたくさん食べるので、園内ではとりつくしてしまいました。そこで、広く市民の皆さんにご協力をよびかけています。これまでも市内は

もちろん、速く広島の子達からも航空便で送っていただきました。どうぞ、たくさんミミズを送って下さい。

## ★キーウイの寄贈式



7月2日夜入園したキーウイは、ニュージーランド航空で香港まで輸送され、ここから日本航空に乗換えて到着したものです。7月8日はニュージーランドのナショナルデーでしたが、これに出席するために来日された、ニュージーランド首相キース・ホリオーク卿が9日朝動物園を訪れ、キーウイを中馬大阪市長に引渡しました。(写真、左からホリオーク首相、中馬市長)

## ★キーウイの愛称募集について

キーウイの入園を永く記念するため広く幼児の皆さんから愛称を募集しています。

期間は8月1日から23日まで、園内のキーウイ舎前で投票用紙及び投票箱を用意していますので、どんどん御応募下さい。愛称発表会は8月30日に園内ステージで行ないます。

なお、ハガキによる応募も結構です。

大阪市天王寺区玉水町2 天王寺動物園  
キーウイペットネーム係まで

↑長い

写真  
↓でい

1. シマの爪
2. キーウイ
3. した
4. 先月に咬

なきごえ 昭和45年8月15日発行(毎月1回15日発行)第6巻第8号(通巻61号)  
編集人/加藤寿雄 発行所/社団法人大阪市天王寺動物園協会 電話 大阪(06)771-0201  
印刷所/株式会社 松村善進堂 振替口座 大阪 37823 定価 50円

## ペット鳥獣輸入

小獣、大動物 全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

## 有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二番地 電話 (078)22-8195・22-1517  
飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話 (078)24-3494



自然の  
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はっさい含まれていません。



# 雪印ヨーグル

パイン・オレンジ・フルーツカクテル

各140c.c.=60円